

Campus Magazine

Vol.32

AUTUMN
2014



Jumping ～心の壁を越えていこう～

10月11日、12日に2014青森県立保健大学大学祭が開催されました。今年も各サークルによる出店をはじめ、様々なサークルによるステージ発表や外部団体の発表、お笑いライブなどの企画で大いに盛り上がりしました。

今年は天候にも恵まれ、2日間晴天のもとで実施することができ、多くの方に来校していただくことができました。会場は出店の食べ物などを抱え、楽しそうに歩く来場者の方々の姿であふれ、来場した子供たちも様々なイベントに参加し、良い思い出として皆様の記憶に残る大学祭を作り上げることができたと感じています。

今年度の大学祭のテーマは、「Jumping ～心の壁を越えていこう～」。学生が自分で感じている壁に挑戦し、乗り越えることができるような大学祭になるよう、また、地域住民の方々と私たちの間にある学校という壁を越え、交流することができるようにこのテーマを設定しました。

多くの学生や先生方、地域住民の方々の協力を得て、今年も大学祭を終えることができました。この場を借りて、深くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

大学祭実行委員会委員長 沼山 瑞樹





サッカーサークル

SOCCER CIRCLE

サッカーサークルは週二回練習しており、青森県社会人リーグとトーナメントの二つの大きな大会に出場しています。今シーズンはリーグ準優勝、トーナメント優勝という成績を残すことができました。

選手はサッカー強豪校出身者から初心者までさまざま、互いに教え合いながら練習しています。春から秋にかけては保健大の芝のグラウンドで、冬の間は体育館で活動してい

て、サークル活動をする環境はとても恵まれています。

みんながサッカーに真剣に取り組んでいて、サッカーをする楽しさだけでなく、大学生活を充実させ自分を成長させるための要素がたくさん詰まっています。

来シーズンはリーグ優勝とトーナメント優勝の二冠を成し遂げるために、ますますサークル活動が活発になっていきます。興味がある方はサークルに来てください。

一緒にサッカーを楽しみましょう！

SMILE サークル

SMILE CIRCLE

私たちSMILEサークルは、ピアカウンセラーとして10代の男女と交流をしています。ピアというのは仲間という意味です。中高生の性のことや大人のカウンセラーに話づらいことを、近年代の私たちが一緒に考えていくことを目的に活動しています。また、正しい知識を提供し、ピアの役割を果たすために研修会も行っています。

主な活動の一つが中学校でのピア活動です。中学校へ訪問し、中学生と一緒に将来のことを考えたり、人を好きになるプロセスを考えたりしています。

今年は、兵庫県神戸市で行われた全国公立大学大会～ LINK topos ～に参加してきました。LINK toposとは、学生のまなざしを大学・地域に最大に活かし、地域の課題解決と未来創造に貢献することを目指した公立大学の学生ネットワークのことです。そこで、私たちが行っているピア活動についてポスターセッションを行ってきました。また、地域の課題について私たち大学生ができる活動をグループワークで考え、発表を行ってきました。各大学さまざまな地域の特性に合った活動を行っていました。看護の視点だけではない意見や考えを聞くことができ、大変勉強になりました。

今後は、中学校だけではなく高校でもピア活動をおこなったり、活動範囲を広げていき、さらに私たちの技術も磨いていこうと考えています。





津軽三味線サークル

TSUGARUSHAMISEN CIRCLE

こんにちは！私たち、津軽三味線サークルはプロの演奏家の方に教えて頂いた曲や先輩から引き継いだ曲を中心に演奏活動を行っています。現在部員は18人で2年生を中心に行っています。

最近の活動としては、公開講座での前座や大学祭での演奏を行いました。例えば、大学祭では地域の方々との交流として大学の近くにある老人ホームの方々と一緒に民謡を発表しましたが、これからも、地域の方々との交流を深めていけるように様々な活動に取り組んでいきたいと思っています。また、今年の5月4日にリンクステーションホールで行われた津軽三味線日本一決定戦では、団体りんごの部で準優勝を頂くことができました。私たちはこの大会のために2月頃から本格的に練習に取り組んできましたが、惜しくも優勝には届かなかったため、来年の大会では優勝できるようにより一層努力して行きたいと思っています。一方で、この準優勝は日頃の練習と地域の皆様のご協力がなければ得られなかったと思います。ご協力ありがとうございました。そして、またご声援をよろしく願いいたします。

最後に、津軽三味線サークルは、今後も皆様に少しでも楽しんで頂けるよう日々練習を重ねるとともに大学生らしく元気に活動していきたいと思っています。

アカペラサークル

A CAPPELLA CIRCLE

こんにちは！！アカペラサークルIN CHAPEL (インチャペル)です！私たちは現在約80名で活動しています。皆さんアカペラって知っていますか！？歌が好きな人達が集まりグループを作って、声だけで音楽を作るものです。歌を通じて聞いている人に喜びや感動を与えることができます。みんなで歌うことってとっても楽しいんですよ♪

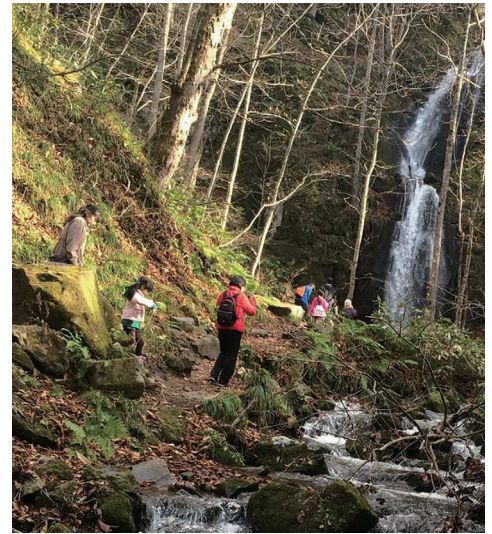
私たちは、今全国各地でLIVEを行っています！そこで知り合った様々な人と交流し、意見交換をしたり、遊んだりもします！そのため、他大学生や他の世代との交流ができます。とても人の輪が広がるサークルだと思います！学校祭では2014年度から初めて屋内ライブだけではなく野外のライブを行いました。またお店も出店し、みんなで一丸となって楽しく活動しています。このようなイベントもたくさんあり、サークル内もとても仲良しです！またサークル員のほぼ全員が大学に入ってからアカペラを始めていて、音楽経験のない人も沢山います！音楽が好きな人、カッコいいからやりたい人、いろんな人と交流したい人…、どんな目的でも大歓迎です！！音楽経験がない人も、心配いりません!!私たちと一緒に楽しく活動しましょう♪



学生発未来を変える挑戦プロジェクト 社会福祉学科3年 三浦 千奈

私たち社会福祉学科増山研究演習A班は、青森県が募集した学生プロジェクトに「青森県の新たな観光開発」をテーマに応募し採用されました。青森県の人口減少の克服を「観光」キーワードとして考察し、対策を提案するための調査をしているところです。

学生の立場から今後の青森県の明るい未来を見据えて取り組んでいます。メンバーには、県外出身者もありますが、それぞれ意見を出し合いながら、学生ならではのフットワークを生かして協力し合ってよい報告ができるようがんばっています。



オレンジリボン運動について 社会福祉学科3年 佐々木 舞子

社会福祉学科増山研究演習B班は、児童虐待防止のシンボルであるオレンジリボン推進活動として、大学祭当日チラシを配布し、11月3日文化の日には青森駅近くの「アウガ」前でオレンジリボンとしおりを配布しました。

また、10月下旬からは学内にポスターを掲示するとともに図書館とのコラボレーションにより、児童虐待に関する図書を紹介するコーナーを図書館内に設置し、児童関係図書の書架にポスター等を掲示しました。

オレンジリボン運動を行う前、演習参加者のほとんどがオレンジリボンの存在を知りませんでした。しかし、この運動を通して、参加学生は児童虐待について深く考えることができました。

地域の方に啓発活動を行うということを通して、児童虐待という問題は社会が責任を持って解決すべき事柄でもあるということを知り、若い世代に重点的に普及・啓発していくことが大切であることを学ぶ有意義な体験となりました。



DMAT参集訓練に参加して 看護学科4年 寺田 遼太郎

10月4日に青森県立中央病院で東北ブロックDMAT参集訓練に参加しました。訓練ではトリアージの赤、黄、緑の患者役となり模擬処置を受けました。私自身救急看護に興味があったことや、災害看護の授業を取っていたこともあり訓練に参加したのですが、災害が発生した際の青森県立中央病院の役割や医療者の働きについて身をもって経験することが出来ました。さらに、訓練後に病院内の救命救急センターの見学やドクターヘリの見学をしたことで、改めて救急センターの看護師として働きたいというモチベーションに繋がりました。



さらなる飛躍に向けて(大学院での研究)

看護学



教授
角濱 春美

看護基礎科学領域は、看護の実践に関わる基礎的な理論を探究する領域です。本年度修了する予定の中村さんは、食欲を引き出すための看護について、特に、自分から食べようとしないう高齢者に、どのように看護したら、食べる喜びを取り戻し、たくさん食べられるようになるかを探究しています。

看護基礎科学領域では主に指導に関わる教員である私以外に、木村・福井両准教授の支援も得て、実践に還元できるような質の高い研究を目指しています。

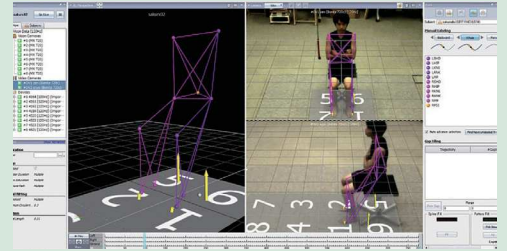


理学療法学



教授
佐藤 秀一

人の日常生活活動の支援を目的として、「障害予防」「健康増進」「リハビリテーション」のための生活環境デザインを構築することを研究方針としています。三次元動作解析装置を用いて、動作をコンピュータ上に再現して解析するデジタルヒューマンモデリング技術により、身体機能と感性から構成される人間特性に適合した、「健やかアップ」技術の研究を進めます。大学院では「リハビリテーション」「運動指導」「管理栄養」などを背景とする院生と異分野連携体制で取り組んでいます。



デジタルヒューマンモデリング

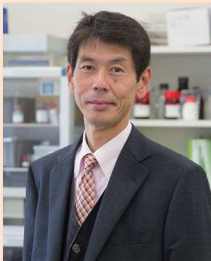
地域保健福祉学



教授
大山 博史

私たちの研究室では、「地域介入によるうつ・自殺予防プログラムの開発」の研究を継続しており、その成果を国内外へ発信しています。来年2015年9月11日～13日には、第39回日本自殺予防学会を本学で開催します。また、精神障害者リハビリテーションに関するテーマとして、「重度精神障害者に対する動物介在療法の効果」の研究に着手しました。現在、青森県内の精神科病院と連携し、効果の実証性を評価しています。最近の博士前期課程の研究では、重度統合失調症の方に対して、訓練犬の世話をするプログラムを導入することにより、本人の生活障害や衝動性が改善することを明らかにしました。

健康栄養科学



教授
岩井 邦久

県民の健康増進と地域産業の活性化を目指し、地域の食資源を対象に糖尿病や高血圧等の生活習慣病の予防に有益な生理機能と作用成分を解明する食品機能科学の研究を行っています。これまでガズミやアピオスの生理機能を発見し、その成果は特許や県内企業の製品化にもつながっています。

現在は、前期課程の北條勇平君(2年)や山下久美子さん(2年)、三浦恵美さん(1年)がホヤ、カワラケツメイ、りんごについて作用と成分の解明に取り組んでおり、指導しながら一緒に研究しています。



岩井教授(左)から実験の説明を受ける
山下さん(中央)と三浦さん(右)

大学院進学に関する意識調査の結果について

9月末に、3・4年生を対象に大学院に関するアンケート調査を実施しました。

その中で、将来的に大学院進学を考えていると答えた学生が約15%おり、さらに「入学料等に減免制度があれば」という条件が加わると30%以上になることが分かりました。大学院進学を考えていない理由の50%以上が経済的なものであり、その不安が解消されれば、「専門領域で自分の知識や研究の力をつけたい」という動機から、多くの学生が大学院への進学を希望していることが伺えます。実際に、医療・福祉・行政機関などで仕事を持ちながら、大学院で学んでいる社会人学生も多くいますので、キャリアプランの選択肢として考えていただくと幸いです。

地域連携・国際センター

地域連携・国際センターは、本学の教育理念である社会貢献とグローバル化へ対応するため、①地域連携科、②研修科、③国際科の3科で構成しています。地域連携科は県民を対象とした生涯学習、各種イベント、ボランティア活動等を、研修科は専門職を対象とした講座・研修を企画実施、国際科は海外高等教育機関との国際的交流を展開しています。

ケア付き青森ねぶた <地域連携科>



平成20年度から大学全体でケア付き青森ねぶたを応援しています。今年度も本学共催で第19回ケア付き青森ねぶたを実施し、学生66名、教職員34名がボランティアとして参加しました。ボランティア養成講座(単位認定講座)、オリエンテーション、直前説明会、各班の顔合わせを経て、障害を持つ参加者を全力でサポートしました。活動終了後には報告会を開催し、ボランティア活動を通じて学んだこと、感じたことなどを発表し、来年のボランティア参加に役立てました。



公開講座 <地域連携科>

開学以来、毎年度公開講座を開催しています。今年度も5月24日から隔週土曜日に開講し、全5回、延べ1,698名の方がご参加いただきました。うち1回はむつ市、1回は青森県観光物産館アスパムで開催しました。



県内各種イベントにも出展しています。

出展に関する
お問い合わせ

青森県立保健大学
地域連携・国際センター
TEL.017-765-4085

韓国仁濟(インジェ)大学校、米国ベレノバ大学との国際交流 <国際科>

平成14年度から韓国の仁濟(インジェ)大学校と国際交流を実施しています。7月9日～8月8日に仁濟大学校の学生2名が来学し、本学や県内関係機関での研修を行い、本学理学療法学科の学生2名が8月29日～9月14日に仁濟大学校を訪れ、仁濟大学校の学生と共に授業参加や附属白(パク)病院での研修を通して理学療法を学び、ソウル市内で身障者センターを見学しました。また、平成17年度からアメリカのベレノバ大学と国際交流を実施しています。東日本大震災の影響により平成23年度から交流が中断されていましたが、今年度から交流が再開され、5月8日～14日にベレノバ大学の学生8名が来学し、浅虫ヘルスプロモーション活動、青森県立中央病院の救命救急センターなどを視察し、有意義な研修となりました。両大学の学生にとって、互いの国で学び交流できたことは貴重な経験になりました。



研究推進・知的財産センター

1. 研究推進・知的財産センターについて

研究推進・知的財産センターは、学内外の諸機関との連携を図りつつ、本県の地域特性に即した保健医療・福祉分野に関する研究をはじめとする学際的、総合的な教育研究を推進し、県立保健大学の学術研究水準の向上、地域における保健医療・福祉の向上に寄与することを目的としています。

2. 研究推進・知的財産センター実施イベント紹介(一部)

① 大学は美味しい！！フェア

期間 平成26年5月28日(水)～6月3日(火)

会場 新宿高島屋11階 催会場

概要 「アピオス」「ガズミ」使用商品の試食販売
(栄養学科 岩井 邦久教授)



② キッチン☆保健大学「おいしい研究室inアスパム」

期間 平成26年7月5日(土)

会場 青森県観光物産館アスパム1階
エントランスホール

概要 「もち小麦」使用食品の試食及び
「アピオス」「ガズミ」使用商品の試食販売
(栄養学科 藤田 修三教授、岩井 邦久教授)



③ イノベーション・ジャパン2014～大学見本市&ビジネスマッチング～

期間 平成26年9月11日(木)～9月12日(金)

会場 東京ビッグサイト 東展示棟 東1ホール

概要 「携帯用医療廃棄物容器」
(特開2014-176445) 試作品展示
(看護学科 細川 満子教授、福井 幸子准教授、
吹田 夕起子講師)



④ おいらせ町観光PRセンター「味祭館」感謝祭

期間 平成26年11月2日(日)

会場 おいらせ町観光PRセンター味祭館

概要 「アピオス」「ガズミ」使用商品の試食販売
(栄養学科 岩井 邦久教授)



3. 2014年度青森県保健医療福祉研究発表会について

本学では、本県の保健医療福祉の向上を目的に、本学教職員・学生及び県内の保健・医療・福祉に従事する方の研究成果を発表する場として、例年「青森県保健医療福祉研究発表会」を開催しており、県内関係者の御参加をいただいているところです。

今年度のシンポジウムテーマは「地域包括ケアの今後を考えるー認知症高齢者を中心にー」となっており、午後には一般演題発表があります。

開催日時 平成26年12月20日(土) **会場** 青森県立保健大学(A棟1階)

就職活動セミナー

就職活動セミナーは外部講師を招き、学年別テーマに沿って年間13回開催しています。

就職活動直近の4年生向けは前期のみ就職活動に沿ったセミナーを、3年生向けに前期は「ビジネスマナー」「自己分析」等就職活動対策を、後期は「応募書類の書き方」「面接の受け方」等就職活動に役立つものを、1・2年生向けには「専門職に携わる者としての心構え」「就職活動の全体像とキャリアプラン」等の将来の就職活動を意識したものを実施しています。



3年生向け就職活動セミナー「エントリーシートの書き方」(10月24日開催)

国家試験対策

社会福祉学科では、国家試験対策として、毎年7月に3・4年生を対象とし、卒業生を招いて体験を聴く会を催し動機付けを行っています。10月には4年生を対象として模試を行い学生自身が実力を自己評価し積極的に国試に取り組む動機付けを行っています。その他教員談話室に参考書を用意する、社会福祉士会によるWEB講座を紹介する等自主学習を支援しています。結果として毎年度全国平均を大きく上回る合格率となっています。



保護者等（後援会）懇談会

保護者等（後援会）懇談会は、保護者の皆様と大学との情報交換及び相互理解を目的に後援会主催で開催しております。今年度は大学祭の初日10月11日（土）に開催し、48名の保護者の皆様のご参加をいただきました。全体会で教育活動状況、学生生活支援、就職支援状況等について本学の現状を説明し、その後、各学科に分かれて説明会・個別相談が行われ、活発な質疑応答があり相互理解を深める機会になりました。



高田後援会長の挨拶

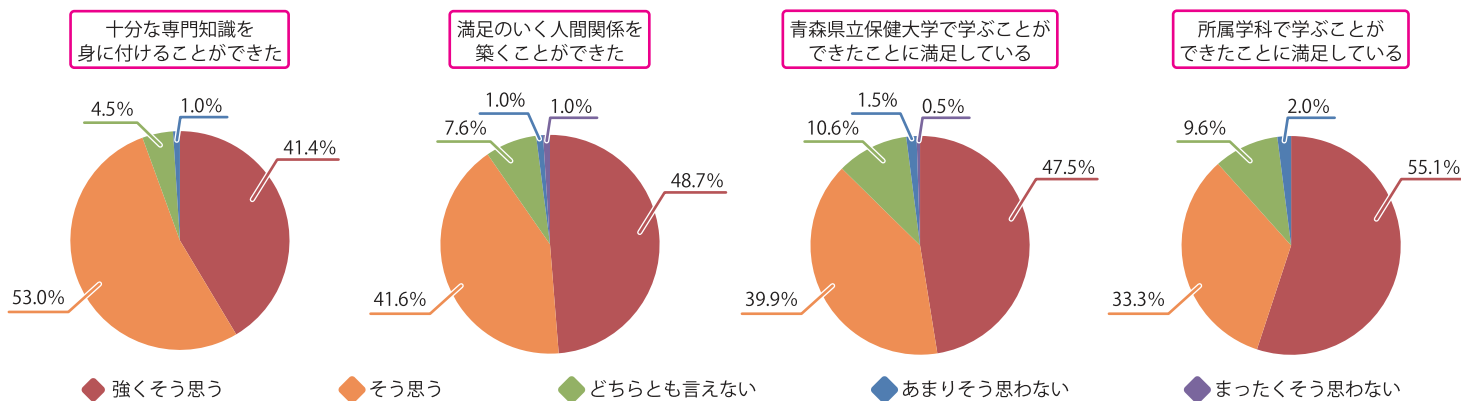


鈴木副学長の挨拶

平成25年度卒業生 学生満足度調査結果について

卒業を控えた平成25年度4年生を対象に、学生生活で得たことと本学に対する満足度について、平成25年12月に調査を実施したところ、9割以上の学生が「十分な専門知識を身に付けることができた」、「満足いく人間関係を築くことができた」、8割以上の学生が「本学及び所属学科で学ぶことができたことに満足している」と回答し、本学の卒業生が4年間の大学生活での自らの成長を確信し、満足している様子がうかがえました。

調査の結果は、今後のカリキュラム検討や学生支援に活かしていきます。



※対象者228名、回収数198、有効回答数194(有効回答率85.1%) 詳細は、本学ホームページ(「学生生活」→「学生満足度調査」→「平成25年度卒業生学生満足度調査結果」<http://www.uhw.ac.jp/seikatsu/files/25manzokudochoosa1.pdf>)を御参照ください。

発行：青森県立保健大学 広報委員会・青森県立保健大学 後援会

